

会 議 録

かわにし事業ディスカッション2014（第4回）

開催日時	平成26年12月21日(日) 午後3時20分から午後4時20分
開催場所	川西市役所 7階 大会議室
内容	交通安全啓発事業の施策反映への経過報告
出席者	コーディネーター 清水 万由子
	メンバー (公募市民) 大塚 千恵子 岡田 忠純 小牧 満也 杉浦 一郎 藤本 美穂
	オブザーバー 石田行政経営室長
	市職員 西田まちづくり推進室長兼道路管理課長 川部道路管理課主幹 的場道路管理課主査
事務局	総合政策部 行政経営室 経営改革課 (内線: 2110)

会議経過

発言者	発言内容等
<p>コーディネーター</p> <p>市職員</p>	<p>時間となりましたので、交通安全啓発事業について、施策に対する経過報告を道路管理課から説明のほどお願いします。</p> <p>高齢者を対象とした交通安全教室の開催については、老人クラブを通して案内を行っているため、担当部会や老人クラブと協議し、啓発チラシ等を配布についても検討していただきたいと思います。</p> <p>次に、自主サークルに対しては、希望に応じて交通安全教室を実施しておりますが、子育て・家庭支援課からの情報提供を受けて、受講団体の充実を図っていきたいと思っています。</p> <p>次に、中学生、高校生は、自転車に乗る機会が多いと考えられるため、自転車のルール、マナーについて、年代に応じたチラシやポスターを作成し、学校を通しての配布や掲示を検討していきます。自転車保険の必要性や自転車事故の関連などをチラシ等でまとめ、自転車販売店頭を通じた配布により、自転車保険の加入促進に努めてまいりたいと考えています。</p> <p>次に、漫画を作成ということで、提言いただいていたのですが、漫画を作成に当たり、一定の技術が必要で作成については難しい部分があると思っています。交通安全について認識してもらうことも提言の趣旨からすると認識してもらいやすいものということとあったと思いますので、重要だと思っています。従来から作成しているチラシ、ポスターについても、見てすぐに理解していただけるような内容にしていきたいと思っています。漫画の内容も含めて4コマ漫画とかにしたいと思いますけども、そのような形で取り入れられないかどうか検討していきたいと思っています。</p> <p>きんたくんをデザインした反射台のキーホルダーは、啓発活動の中で配布しています。できるだけ啓発グッズというのは、より効果的にかつ指導していく部署にも当てはまるような形で作成していきたいと考えていますので、市民に身に付けていただけるような物品の作成を検討していきたいと思っています。</p> <p>交通安全フェアを開催して、中学生の吹奏楽部を招待し、若年世代の方も参加していただけるような取り組みを現在行っています。交通安全フェアやイベントについても、警察署、交通安全協会が参加しシミュレーターを使用した啓発も行っているため、今後も、内容充実を図りたいと思っています。</p> <p>次に、ホームページは手軽に閲覧できるため、交通事故の状況や交通安全啓発についての写真を掲載し、多くの世代が日ごろから交通安全を意識できるような内容を検討していききたいと思います。動画という話が出てきたと思いますが、動画については、独自で作成するのは、難しくなるので、その辺については動画のアクセス数とかを把握した上で、効果的であるのであれば、その辺まで踏み込んでいきたいと思っています。</p> <p>次に、交通安全指導については、道路交通法等がもとになっており、一定の知識や経験も必要になります。誤った指導は、危険な行動につながるので、地域の指導員の育成は難しいと思います。ある程度の専門な知識、それから専門的なスキルのある方でないと、地域の方で指導員を育成していくというのは難しいと思っています。地域で開催する警察や、交通指導員の専門的な講習をもとに、交通安全啓発を行うことがもっとも効果的と言いますが、正確で効果的であると考えています。</p> <p>川西市内の事故件数や、都市ごとの事故発生状況を考えると、各地域の事故多発地帯をまとめたようなマップ作成は難しいと思います。川西市内の事故の発生状況や、主な事故事例をまとめたような啓発写真の作成を検討していきたいと思っています。</p>

発言者	発言内容等
	<p>自動車運転者自身の運転能力を自覚することは、交通安全を図る上で重要なものと考えていますので、そのチェックリストというのは、自覚していただくために必要で、意義があるので、作成を検討していただきたいと思います。健康診断等の他部署が関係する機会での配布は、難しい部分があります。というのは、いろいろなところで健康診断をやられる場合について、健康診断の内容とか、結果とか、そういうのに焦点を置いて、配布物も考えていくわけですが、それにいろんな要素がありますと、本来の目的がちょっと分散化する可能性がありますので、その辺は慎重に考えていただきたいと思います。高齢者の交通安全教室というのは、交通安全を図る上での活動になりますので、その辺については、チェックリストを使用して、自らの行動を振り返ってもらう教材として使用できないかとかというのを検討していきたいと思います。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございました。では、報告いただいた反映内容について、質問、感想でもコメントでも何でも結構ですので、皆さんのほうから何かあればお願いします。</p>
メンバー	<p>地域での指導員の育成というのは難しいということだったんですけども、専門的な交通指導員のための講習というのは、年に何回ぐらい、その参加者がどれぐらいいるのかというのは、把握されていますでしょうか。</p>
市職員	<p>指導員のほうは、阪神間で年に一度、指導員の研修会をまず設けていまして、それ以外に、大阪あるいは神戸とかで研修会があったときに、年に2回か3回ぐらいは行って教室の参考とかにしています。</p>
メンバー	<p>前のディスカッションのときに、ピラミッドがあり、一番上が警察で、正式な交通指導員で、その下が市民の中でちょっと交通指導もできるようなという、最後に漫画と申しますけども、なかなか地域での指導員の育成も難しく、専門的な講習もいっぱいできないのであれば、ピラミッドもなかなか難しいというふうに感じました。</p>
コーディネーター	<p>交通指導員というのは、何かすごく専門的な人ですか。どういう能力とか、知識とか、経験を持った方がされるのでしょうか。</p>
市職員	<p>指導員の中でも、どこまで関わられるかということになりますと思いますけど、あくまで呼びかけとかであれば、それほど専門的な知識はいらないと思います。指導するとそんなことをしたらだめとか、このようにしなさいというような指導であれば、専門的な講習を受けていただき、どのような指導スキルでやっていただく。効果的なやり方がどのような内容かも含めて、募集なり、研修を受けていただいた方がいいのではないかと思います。指導員ということで、幅広い内容を含んでいるかもしれませんが、見守り、呼びかけというのは、小学校の登校とかでスクールガードとかというような形で、見守りしていただいている中で、小学生の交通安全を図る上で、横断歩道に立っていただいて、それで子どもを見守っていただく。ちょっと信号が変わりそうになったら止まりなさいと、その辺の軽い内容であれば特に問題がないと思います。ここに書いている指導員は、いろんな講習を受けていただいてということになってくるので、ちょっと難しい内容と思いかしていただきました。</p>
コーディネーター	<p>ほかの方、いかがでしょうか。この点、ほかにあれば結構ですが。交通指導員というのは、専門的な研修を受けるということが条件ですか。それ以上に、それ以外の条件とか何か、例えば報酬があるとか、義務があるとかありましたか。</p>
市職員	<p>交通指導員のほうは、嘱託職員1名と臨時職員2名で何か資格を持った方を採用するというではないです。例えば、幼児を交通安全教室で対象としていますので、そういう経験のある方とかいうことで条件をつけています。その後の知識というのは、警察と常に連携して行っていますので、長年やっている嘱託職員の指導を受けたり、警察の指導を受けたりして、身につけているような状況になっています。</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>もともと道路管理課のほうからは、交通指導員が不足しているということで、増やせないかというような提起もあったわけですが、それに対してディスカッションの中では、嘱託職員とか、臨時職員という形で、交通指導員を何千人とかいう単位で増やすというのはちょっと現実的ではないので、そうであれば地域のボランティアというか、住民の方に講習を受けていただき、程度として指導員ほどではないかもしれませんが、呼びかけとか、指導できるような人を育ててはどうかというような業務ですけれども。</p>
メンバー	<p>交通指導員という言葉にちょっととらわれ過ぎてしまっていて、今おられる交通指導員の方はしっかり研修とかをされていてすごい知識がたくさんある方だと思います。そういう方たちから市民の方に、例えば交通安全アドバイザーみたいな感じのアドバイザー講習みたいなのを開いていただくことで、ある程度の知識、普通に生活していたらもちろん横断歩道を渡るときに右見て、左見て、右見て渡るとか、子どもだったら青が点滅し出したら渡らないとか、そういった基本的な一般常識ではあるけれども、以外とちゃんとと言わないと子どもたちはわかってなく、大人でも言われてみたら私やっているけど、そうだったというような内容のところだけでもできるようなアドバイザーを増やすことで、現状の指導員の数の中で、小さいところはアドバイザーにやっていただいて、もっと詳しくもっとそれこそ自転車のシミュレーション的なことをしたりとかをするのは、指導員がやるというようなちょっとすみ分けを試みるのも1つではないかと思えます。</p>
コーディネーター 市職員	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか、今のご意見に対して。</p> <p>交通アドバイザーということで、内容によって変えていけばいいのではないかと。話しましたように嘱託職員1名、臨時職員2名で警察署の指導員と一緒にしています。各地域、自治会単位にするのか、学校コミュニティ単位にするのか、非常に難しい問題がありますけども、声かけをさせていただいた中で、朝でしたら黄色のジャンパーを着て、子どもの信号の前で止まらせていただいて、指導していただいている方もいます。警察OBも市内各所にいられると聞いています。まずはそういった方々に声をかけた後に、どのような形で参加していただくかということではもう少し私どもも参考にさせていただきながら検討したいと考えています。</p>
メンバー	<p>交通指導員というよりは、私の地区では、小学校の通学路の見守り隊になります。当初50何人のボランティアの協力をいただいて、それが今半減しているということで、先日も学校から自治会に協力してほしいという依頼がありました。具体的な自治会からの行動というのは、今日の昼から役員会をやっているんで、そこで具体的な話が出ているかもしれませんが、今朝ここへ来る前に自主防災会議の際に、見守り隊のボランティアをやっている人のそばへ住民が寄って来ていくらもらっているのですかと言われた。そしてボランティアですと言ったら、そうかと言って、そのままどこかに行ってしまったというようなことがあるので、責任を持って子どもの安全を守るという意味では、小学生ですから、指導員というよりはやっぱり見守った有志のボランティアがそれぞれ信号で渡っていいとか止まりなさいというようなことを言っているぐらいで、取り立てて交通ルールがどうのということまで、実際の行動の中では交通ルールに従って指導はされていると思いますけど、子どもにこうだから、ああだからという具体的な説明はしていないと思います。そういうボランティア活動に対して、やはり市民が、自治会がというより、何か行政のほうからも要請、依頼みたいな呼びかけがあると多少増えると思います。PTAも一生懸命お母さん方に協力を呼びかけて、自治会としても何らかの形で協力したいと取り組み、11月も1回、PTAと地域の安全部、協力隊と一緒に</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	ミーティングをやっています。先ほど、話があったように、報酬が出て協力ができるのなら、それも全くボランティアばかりでなく、人を集める手立てにはなるのではないかと思います。
市職員	<p>コーディネーター スクールガードと言いますが、その見守り隊のサポートだと思うのですが、そういう方とか、常にされている方、あるいは警察のOBにも声をかけてという話もありましたが、報酬があるのか、ないのかとかいうところはまたちょっと詰めていただけたらと思います。その嘱託職員、臨時職員で1、2名というのが現状であって、そういう指導員を3名にしたらいいいのか、4名にしたらいいいのかという話より、もう少し地域でボランティアしていただいている方もいるわけですから、そういう方に研修を年に1回でも2回でもちゃんと受けていただいて、きちり指導というか、声かけができるようにするような体制をつくるであるとか、何かそういうちょっと裾野を広げるというか、そういうこともそんなに難しいことではないような気がします。恐らくこのメンバーの印象だと思いますので、検討をいただければと思うのですが。</p> <p>市職員 ボランティアでお願いするというのであれば、当然その地域の自治会、それからコミュニティの方々、どれだけの熱意を持っていただけるだろうというところに関わるので、その辺はちょっと研究していきます。コミュニティとか、自治会を担当している部署もありますので、その辺のところとも連携をした上で、今の提言をちょっと研究していただきたいというふうに思います。</p>
コーディネーター	<p>コーディネーター ぜひそのように、ほかのコミュニティとか、市民活動とかを担当されている方の部署ともぜひ連携をしていただければと思います。</p>
メンバー	<p>メンバー 関連して教えていただきたいのですが、その見守り隊の人が子どもを守るために、いわゆる交差点を急に曲がってきた車が来たので、子どもを突きはねるようにして安全を守りました。子どもはガードレールに当たってちょっと大きなけがではなかったようですが、そういうときのその行為に対して川西市として何か保険とかいうのは、見守り隊の行為に対しては何か入っているのでしょうか。</p>
市職員	<p>市職員 道路管理課で、そういった保険はありません。ただ、見守り隊を中心に指導されているところでどういう考えになっているかというのは、ここではわかりません。</p>
オブザーバー	<p>オブザーバー 市でボランティアをお願いするときに、基本的にボランティア保険をそれぞれのボランティアをされる方に加入をいただいているというようなのが実情です。ただ、ボランティア活動中にその方がけがした場合は、そのボランティア保険で賄われるというのは知っていますが、対人に対して、また対物ということが出てきますので、そのときまで保証があるかというのは、今の段階ではわかりません。基本的には、事故の部分については、ボランティア保険で対応していただいているということです。それが、一定の催しで、例えば指導するときに、行事保険とか、そういったところで、行事であれば事故ではなくいろんな特定多数の方が来られてそこで事故された分についても保険の対象になりますので、そういったことでの対応になるかと思います。</p>
メンバー	<p>メンバー ボランティアをしていたら、ボランティア保険に加入を進められますけど、加入の際に500円ほど支払わないといけない保険になると思います。</p>
メンバー コーディネーター	<p>メンバー それは、私も入っています。入ってもらっているというか、自治会で入っています。</p> <p>コーディネーター 交通指導員ではなく、ボランティア的なのかというか、時期でやっていただくというときに、そういったことは大事なことです。</p>
メンバー	<p>メンバー 安心して奉仕活動ができると言いますが、自分の身ではなく、行っている行為に対する保険が効くか効かないか大分安心感が違います。</p>
コーディネーター	<p>コーディネーター そういったこともやらない理由にするというよりは、どうしたらそのような問題をク</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>リアできるかということも検討していただき、ぜひ裾野を広げるということは検討していただければと思います。</p> <p>全体的に、施策反映の報告ということでは若干消極的な表現と言いますか、印象がどうしても残ってしまう内容にちょっと感じてしまいます。実際のところ予算とか、マンパワーの問題で限りがあるでしょうから、すべてを検討して実施するというのは無理だろうというのが正直思うところで、その中でも優先順位であるとか、これはできそうだといいところを本音で思っているところというのではどうでしょうか。</p>
市職員	<p>具体的にどれがというわけではないですけども、当然、今やっていっている活動の充実という部分においては、十分に提言していただいた内容を理解させていただいて、その活動に反映させていただきたいと思います。ただ、ちょっと新たな要素というのは、先ほど申し上げた際に言っていたいただきましたように、予算の関係もありますし、マンパワーの問題もありますので、なかなかちょっとこの場でできる、できない、やっていきますというようなことがなかなか言いにくい事情があります。今も行っているチラシとか、ポスターとか、そういうものについてこのようなことを行えば、こうしたらもっと効果的なものができるという内容については、積極的に検討していきたいと思っています。</p>
コーディネーター	<p>経過報告の上に並んでいることは、もう既にしていますということもあったわけです。であればもう少しディスカッションのときにしている内容をさらに充実させるためにはどうしたらいいかというあたり議論できればよかったというふうに私もちょっと反省と言いますか、しています。皆さんのほうから特にこれはぜひやってほしいというか、大事なことということがあれば、お願いします。</p>
メンバー	<p>中学生、高校生の自転車に乗る機会がいろいろあります。実際、私が経験した10日ほど前ですけども、住宅地の道路の中で、広い道路を走っている直前を自転車2台が脇道から停車せずに前を抜けて行きました。事故にならなかったのはタイミング的にちょっとずれただけで、そのままもう少し接近をしていると、こちらがはねるか、向こうが境に当たるかというような感じでした。だから、中学生ぐらいはもう少し教育、場合によっては、学校へスタントを呼んでこんなことをしたら怖いということを感じて、事故が起きてからは遅いです。何らかの形での研修、教育を受けて、例えば自転車乗車免許とか、そういうオフィシャルなやつでなくてもいいから渡すような形で、研修を受けさせるということができないかというのを思いました。</p>
市職員	<p>現在は、幼児、小学生については、講習を受けてうまく運転ができれば自転車運転免許証を渡しています。それで、中学生のところには指導啓発ができていませんという問題がありますということをお伝えしたと思います。今後は学校等へチラシをあわせまして検討したいと思っていますけども、小学校でも教えるということに時間を割いていただかないといけませんので、教育時間の中でその時間を取っていただけない小学校もごさいます。そういったところからまず解決をしていきたいと考えています。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。なかなか中学生というのは言ってもあまり聞かない。言ったら言うだけ逆に反発するというのもあるので難しいですが。</p>
メンバー	<p>ちょっとディスカッションから外れるかもしれませんが、小学校のほうは定期的に講習に行かれ、ある程度カバーされているということでした。小学校の交通安全指導というのは、自転車と交差点の渡り方がメインで講習すると思います。私が先日、自転車に乗っていて体験したことですけど、子どもをうしろに乗せて普通に走っていました。前から小学生が、前を見ずに横を見ながら笑いながら向かって来ました。何かそういったことのマナーを学校で学ぶべきことかもしれませんが、道路は、車が来る、自転</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>車が来るところというところの指導というのも一緒に指導していただければありがたいと思いました。</p> <p>指導員が小学校に行つての指導は、グラウンドに白線を引き、信号機を持って行き、信号の見方、歩行の仕方、それから信号のない交差点についても歩行の仕方を指導しています。ただ、道いっぱい広がってというところは、私は現場も行っていませんので、詳しくは知りませんが、機会がありましたらそういったことも話をしてできることは続けていきたいと考えています。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。ちょっと私のほうからですけども、動画という提案がありまして、それについての言及していただき、あと漫画というのもありました。漫画も動画もそうですが、多分職員が直接漫画を描いたりするというのはちょっと難しいと思うので、委託とか、市民からつくった物を募集するとか、そういうちょっとやり方を考えていただいたら十分いけるのではないかと思います。</p>
市職員	<p>委託については、費用がかかるのでちょっと無理だと思います。ただ、市民の方から広報を通じてイラストであるとか、市民のほうからおもしろいコンテとかがありましたら採用できるようにしたいです。今回も回答の中で、作成については検討していきたいというところにそういったところを取り入れてできるかどうかそれも検討していきたいです。</p>
コーディネーター	<p>生活の中に取り込んでいくと言いますか、わざわざ時間を取って年に1回30分だけ話を聞いてもなかなか意識は変わらないので、生活の中のいろんな場面で、こんな自転車の乗り方したら危ないということも意識する機会をたくさんつくることが大事だと思うので、できるだけいろんな方法を取り入れていかれるというのが大事だと思います。ほかに、皆さんから何か疑問点とかあればお願いします。</p>
市職員	<p>動画ですけども、動画ってなかなか作成するというのは、非常に手間もかかるし、スキルもいると思います。例えば、交通安全教室の教室風景を動画で配信するというのもあるかと思います。こういうふうにやっていますというPR的な要素も強いとは思いますが、交通安全についての理解を深めていただくためにも必要ではないかと話し合っています。</p>
コーディネーター	<p>やりやすいところからやっていかれるのがいいと思いますし、それも有効だと思います。その動画を見てもらうための周知と言いますか、啓発みたいなこともあわせてされたら効果は出てくるのではないかと思います。</p>
オブザーバー	<p>今回の事業ディスカッションについては、所管課のほうから、特に中学生のところは薄くなっているというような課題を投げかけて、それぞれメンバーの方に議論をいただいています。最近聞いたところによりますと、川西市内で交通事故の死亡事故が特に増えている。今年度に入ってという情報を聞いています。多分こういったことについては、交通安全に対する緊急の対応というのが迫られてくると思うのですが、所管課のほうで、通常の交通安全については今回の啓発事業で出ているようなやり方というようなところになるかと思います。緊急の交通事故、事象が起きたときにはどのような、例えば周知であるとか、その辺をされているかということもちょっと教えてほしいです。</p>
市職員	<p>今年度は高齢者の交通事故、死亡というのが非常に多くて、川西市で5件、猪名川町で3件ということで、例年よりも多くなっています。まず、警察のほうから号外という形のもので1月にチラシで書かれました。その後、先日、高齢者が車と車の間で横断し死亡事故が発生しました。そのときに警察のほうから依頼がありまして、担当する所管が集まり対策会議が開かれました。それで川西市は号外として事故が多いですとイラストを入れた形で全市民には配布していませんが、自治会であるとか、市の公共施設に</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター メンバー	<p>配布いたしました。</p> <p>ほかに皆さんからいかがでしょう。気になる点。</p> <p>交通安全は生活に密着しています。特に中学生、高校生は、生活区域が川西市だけでなく、伊丹市、宝塚市、尼崎市とか、阪神地区でしたら部活動も含め移動していると思います。話を聞いて時間、予算の問題とかがあり、いろんな線を超えていくというのはなかなか大変なことと思います。中学生、高校生は、市を超えて進めていかないと話を聞いて思いました。</p>
市職員	<p>話をしていただいた件については、当然ながら今回の号外を出した部分も含めて、阪神間の道路管理者会議があります。そのような中でも話題であったり、情報を提供したり、または警察の指導員の講習の中でも各市の状況は、出されています。情報が足りない場合については、川西市からも発信していきたいと思っています。</p>
メンバー	<p>道路管理の観点だけでなく、市民の安全という意味からやはり二輪車に乗る場合は年代を問わずヘルメットを着用というのは、強制ではなくても、推奨できないかと思います。</p>
市職員	<p>幼児については、自転車を買った時にヘルメットとか、必ず販売店のほうから勧めていると聞いています。山間部のほうでは、中学生、高校生までヘルメットを付けているというところまでは確認しています。それを義務付けと言いますか、広報的な形で、着用すると事故があったときに安全ですという形のをペーパー上では少し流せるかとは思いますが、ホームページの中でも訴えるかもわかりませんが、全体として大人も含めてということになると、ちょっと難しいと思っています。</p>
メンバー	<p>先般のニュースで、バイクはヘルメット着用が義務ですけれども、何か格好いいデザイン化されたヘルメットがニュースになっていました。帽子を被るような感覚でヘルメットを着けて、それが結果的に自分の身を守るというのであれば、もちろん法的な強制ではなくても1つの推進運動的に進めるというようなことができるとと思います。</p>
コーディネーター	<p>ヘルメットもそうですし、反射材を付けるとかいうこともそうです。マナーもそうだと思いますけど、やっぱり自転車の乗り方の標準みたいなのがもう少しあたり前として市民全体で浸透すると、中学生だけじゃなくて、大人もみんなそのようになるというところなんです。なかなかすぐにはできませんが、何かそういう思いでというか、方針で、呼びかけをずっと続けていっていただければと思います。</p>
市職員	<p>ちょっと私のほうから地域ごとの事故多発地帯をまとめたマップを作成するのは難しいということですけど、これは何か理由があるのでしょうか。</p> <p>マップをつくるということは、危険を皆さんに知っていただくというのはいいですが、そこが危険なところだということも地域で自分らが認めると言いますか、言われるのが嫌だということもあると考えています。だから、発信するものと、受けるほうの立場も十分にその辺は理解をしていけないと思い、そのような回答にしています。</p>
コーディネーター	<p>私もディスカッションの中で、このマップつくったらどうですかという話をしました。すべての地区を網羅的にやる必要は全くないと思います。ちょっとここ危険だなというような情報が聞こえてくるようなところであるとか、もう地図を見て明らかにここはちょっと要注意だなというようなところを重点的にちょっとモデルケースのような感じで調査していただくとか、警察のほうも忙しいと思うのでなかなか頼みにくいというのはあるとは思いますが。川西市のほうで、非常に重要な重点地区だということで、きちんとした対策は必要だということの説明する。あと、危険と言われるのも地域の方もやっぱり抵抗があるのは、その通りだと思います。地元の方にヒアリングではないですけどもここでよく事故をごらんになりませんかみたいなことを、自治会とか、コミュニティの</p>

発言者	発言内容等
市職員 コーディネーター	<p>場で考えてもらうとか、その上でマップ化するとかいうのはちょっとやめてほしいということであれば無理にする必要は全然ないと思います。それも地元とのやり取りの中で、事故の原因を分析とか、それに基づいた対策をするであるとかいうことを検討されるというのがいいのではないかと考えての趣旨です。</p> <p>まず、死亡事故が市道、県道、国道で起こりましたら、関係するところが集まり現場検証するとか、信号のないところで一旦停止が薄くなっているとか、このミラーがあれば見えるのにと改善行為をします。乱横断防止、信号までの手前で横断してそれが見えなくて、赤信号を避けるために迂回をするとかいうような部分については、人の安全を守るために看板を設置するところは既にやっています。新たな部分については、もう少し所管のほうと検討させていただいて、地域に安全がいいからと言いながら、飛び出し注意を電柱にすべて取り付ける。例えば一旦停止と言って書いてあるものをまた手前に書くのではなく、もう少し検討する必要があると思っています。</p> <p>具体的なやり方については、地域ごとにもあると思いますし、検討いただければと思います。</p> <p>皆さん、ほかで何か最後にこれだけは言いたいということがございますか。どうでしょうか。</p> <p>最後に、交通安全啓発事業の事業改善に向けてどういったことを今後されていくかということの確認ですけれども、まずは、啓発活動の連携ということで、さまざまな世代に対する啓発というのも現状でもかなりされているので、それを引き続きやっていく。特に中学生に対しては、塾への呼びかけとか、自転車販売店への呼びかけとかいう話もありましたし、ヘルメット着用の件とか、いろんなやり方を試してみるというようなことしかないのかと思います。</p> <p>そして、啓発方法の多様化ということで、いろいろ課題もあるということですが、漫画とか、動画とか、新しい啓発方法についても、まずはできることから始めていただくといいと思いますので、できれば住民の方、市民の方にも一緒に考えていただくようなコンテストとかも、ぜひ検討していただけたらということです。</p> <p>それから、市民交通安全指導員、交通安全アドバイザー、見守り隊、その名前はいろいろあると思いますが、交通安全指導員からもっと裾野を広げるような呼びかけをできる方を研修していただき、ボランティア的なところの呼びかけをするなり、自治会とか、コミュニティの担当部署とも連携して、どのような方法が可能かということを検討していただくということでもよろしいですか。</p> <p>マップについては、どこまでできるか要検討ではありますが、地域での取り組みということと少し連動させていただければ、地域で必要があればマップみたいなことも1つあるかもしれないということだと思います。地域リストについても積極的に検討、作成に向けてやっていただくということですので、具体的にやっていただきたいことはたくさん挙がっています。少しずつではあると思いますが、事業の改善のほうをよろしく進めていただければということです。</p> <p>以上で、交通安全啓発事業については終了ということで、どうもありがとうございました。</p>